2024年度以降入学生用　常磐大学　総合政策学部　経営学科　履修系統図（図形式）【ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応関係】

建学の精神　実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。

教育理念　自立・創造・真摯

学科の教育研究上の目的　（1）経営（マネジメント）の観点から、グローバル社会において企業等が直面している諸問題に取り組み、その具体的な解決策を提示できる能力を備えた人材を養成する。
（2）企業活動の多様化・複雑化を踏まえ幅広い教養を基礎として、経営・マネジメント、商業・マーケティングおよび財務・会計の戦略的な実践能力の涵養に向けた教育研究を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針（教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー）	授業科目				卒業の認定に関する方針（卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー）
（1）編成方針 ディプロマ・ポリシーで明示した学修成果を実現するため、教育研究上の目的に沿ったカリキュラムを編成します。全体の構造としては、社会科学一般の学問を基礎としながら、経営・マネジメント分野、商業・マーケティング分野、財務・会計分野の3つの専門分野の学科専攻科目を編成します。	1年次	2年次	3年次	4年次	経営（マネジメント）の観点から、グローバル社会の中で企業等が直面している諸問題に取り組み、その具体的な解決策を提示できる能力を備えた人材を養成します。
（2）実施方針 （1）学部共通科目では、大学で学ぶための基本的な技能と知識を身につけるための教育を行います。	学びの技法Ⅰ・Ⅱ 統計の基礎 情報の処理Ⅰ・Ⅱ 総合政策入門 英語Ⅰ～Ⅳ キャリア形成と大学	英語Ⅴ・Ⅵ			1.基本的語学力、情報処理能力を修得し、経営、マーケティングおよび財務・会計に関する基礎知識について説明できる。（知識・理解）
（2）学科専攻科目のうち学科基本科目では、経営・マネジメント、マーケティング・商業、財務・会計の基礎的科目の授業を通じて、経営学の基本的な考え方を身につけるための教育を行います。また、「基礎ゼミナール」では、グループでの議論・意見交換を通じて、互いに協力して課題解決に取り組む協働力を身につけるための教育を行います。そして、関連科目では秘書業務やビジネス英語などの授業を展開します。	経営学概論 マーケティング基礎論 消費者行動論 簿記原理Ⅰ 簿記原理Ⅱ ビジネス基礎演習	国際経済学 経営者論 国際ビジネス論 基礎ゼミナール 秘書学概論 秘書学演習 ビジネス英語Ⅰ ビジネス英語Ⅱ 職業指導論	キャリア開発論 能力開発演習 ビジネス専門演習		2.グローバル化する社会にあって、経営（マネジメント）という観点から課題を解決する調整能力を備えている。（思考・判断）
（3）学科専攻科目のうち経営・マネジメント分野では、人事、戦略、企業倫理、国際経営などを学ぶ科目によって、組織と管理についての専門的な知識、思考や態度を身につけるための教育を行います。またビジネス界で活躍するゲストスピーカーを招致した授業を行い、理論と実際の両面から経営学の知識を効果的に身につけるための教育を行います。		経営学特論 経営戦略論 経営組織論 企業論 企業倫理 人事労務管理論 中小企業経営論	ベンチャービジネス論 国際経営論		
（4）学科専攻科目のうち商業・マーケティング分野では、サービス、広告、流通などを学ぶ科目によって、マーケティング活動についての専門的な知識、思考や態度を身につけるための教育を行います。また外部の企業・団体と連携したプロジェクト型の授業を行い、実践的な能力を身につけるための教育を行います。		サービス産業論 広告論 観光経営論 ICTマーケティング ビジネスICT演習 マーケティング演習	商品戦略論 流通産業論		3.実務に対応した専門性を高めようとする真摯な態度と意欲を身につけている。（態度）
（5）学科専攻科目のうち財務・会計分野では、簿記、会計学、ファイナンスなどを学ぶ科目によって、財務管理と金融の仕組むについての専門的な知識、思考や態度を身につけるための教育を行います。また実社会で有用な資格試験・検定試験と連動した授業を行い、実践的な能力を身につけるための教育を行います。	中級簿記 工業簿記 上級簿記 原価計算論	ファイナンス基礎論 会計学概論 金融概論 経営分析論 管理会計論	財務管理論 地域金融論 地域金融システム論		
（6）「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、学生それぞれの問題関心に応じた専門領域の知識を深めるため、グループワークやディスカッションを取り入れた教育を行います。また「卒業論文Ⅰ～Ⅲ」では、学びの集大成として、研究テーマを自分で設定し、これまでに得た知識・思考・態度等を総合した課題解決の能力を身につけるための教育を行います。		ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ 卒業論文Ⅰ	卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ	4.地域経済において直面する問題を解決するコミュニケーション能力とリーダーシップを備えている。（技能）

学士の学位授与

常磐大学　総合政策学部　学部共通科目　履修系統図（表形式）【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連（学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項）

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 （授業科目の中心となる題目・問題・ テーマ等）	学生の学修目標 （到達目標）	1.広範な教養と知識を身につけ、社会での活用方策を創造することができる。（知識・理解）	2.変容する社会の諸問題を柔軟な思考で捉え、多面的な視野で判断し、課題発見、課題解決に取り組むことができる。（思考・判断）	3.諸分野の協働が求められる社会の中で、自らの役割を認識し、自主的に活動する真摯な姿勢を身につけている。（態度）	4.専門的知識を統合的に応用し、政策の立案・提言により社会に貢献できる実践的な能力を備えている。（技能）	**＜SDGsの17のゴールとの関連＞** 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ ①：貧困をなくそう ②：飢餓をゼロに ③：すべての人に健康と福祉を ④：質の高い教育をみんなに ⑤：ジェンダー平等を実現しよう ⑥：安全な水とトイレを世界中に ⑦：エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧：働きがいも経済成長も ⑨：産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩：人や国の不平等をなくそう ⑪：住み続けられるまちづくりを ⑫：つくる責任つかう責任 ⑬：気候変動に具体的な対策を ⑭：海の豊かさを守ろう ⑮：陸の豊かさも守ろう ⑯：平和と公正をすべての人に ⑰：パートナーシップで目標を達成しよう
学部共通科目	学部基本科目	MAA-101	総合政策入門	講義	2		1	○		本授業は総合政策に関する基礎的知識の修得を目標とする。 総合政策とは、現代社会が直面する問題の発見とその解決を目指す学問体系である。各授業は、総合政策を理解し考える上で必要となる5つの分野（経済、経営、法律、行政、政治）で構成される。	(1)5つの分野（経済、経営、法律、行政、政治）が総合政策を考える上でどのように関わるかを理解することができる。 (2)今後の大学での学びについて、自分が何を中心に学んでいくかを考えることができる。	●	○			概論

【2023年度以前適用カリキュラム】 常磐大学　総合政策学部　経営学科　履修系統図（表形式）【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学部共通科目	学部基本科目	MAA-101	総合政策概論Ⅰ	講義	2		1	○		本授業は総合政策に関する基礎的知識の修得を目標とする。 総合政策とは、現代社会が直面する問題の発見とその解決を目指す学問体系である。各授業は、総合政策を理解し考える上で必要となる5つの分野（経済、経営、法律、行政、政治）で構成される。	(1)5つの分野（経済、経営、法律、行政、政治）が総合政策を考える上でどのように関わるかを理解することができる。 (2)今後の大学での学びについて、自分が何を中心に学んでいくかを考えることができる。	●	○			概論
		MAA-102	総合政策概論Ⅱ	講義	2		1	○		本授業は社会における諸問題について多角的視点で考えられるようになることを目標とする。 総合政策とは、現代社会が直面する問題の発見とその解決を目指す学問体系である。各授業は、6つの社会問題について2つの視点から問題解決を考えてゆく。	(1)社会問題について多角的視野で考えることができる。 (2)社会問題について自分なりの解決策を提案できる。	●				③⑧

常磐大学　総合政策学部　経営学科　履修系統図（表形式）【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連（学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項）

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 （授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等）	学生の学修目標 （到達目標）	1.基本的語学力、情報処理能力を修得し、経営、マーケティングおよび財務・会計に関する基礎知識について説明できる。（知識・理解）	2.グローバル化する社会にあって、経営（マネジメント）という観点から課題を解決する調整能力を備えている。（思考・判断）	3.実務に対応した専門性を高めようとする真摯な態度と意欲を身につけている。（態度）	4.地域経済において直面する問題を解決するコミュニケーション能力とリーダーシップを備えている。（技能）	＜SDGsの17のゴールとの関連＞ 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ (1)：貧困をなくそう (2)：飢餓をゼロに (3)：すべての人に健康と福祉を (4)：質の高い教育をみんなに (5)：ジェンダー平等を実現しよう (6)：安全な水とトイレを世界中に (7)：エネルギーをみんなにそしてクリーンに (8)：働きがいも経済成長も (9)：産業と技術革新の基盤をつくろう (10)：人や国の不平等をなくそう (11)：住み続けられるまちづくりを (12)：つくる責任つかう責任 (13)：気候変動に具体的な対策を (14)：海の豊かさを守ろう (15)：陸の豊かさも守ろう (16)：平和と公正をすべての人に (17)：パートナーシップで目標を達成しよう
学科基本科目		MNG-111	経営学概論	講義	2		1	○	○		本講義は、現代の経済社会を構成している主要な組織である企業の経営に関する基本的な知識や理論を、身近な企業の事例をもとに解説する。	(1)企業経営にかかわる様々な側面を学習することにより、企業とは何か、経営者の役割とは何かという問題を立体的に認識するための基本的な能力を身につけ、経営学とはどのような学問か、説明できるようになる。	●	◎			
		MNG-211	国際経済学	講義		2	2		○	経済学の視点から国際情勢を捉える。	近年、TPP（環太平洋連携協定）やEPA（経済連携協定）に代表されるように、国際間の取引が大きく変化しはじめています。本講義では、国際間取引の実態やルールについて、経済学の視点から理解を図ることを目的とします。具体的には、貿易・為替に関する理論的・歴史的な解説を行った上で、国家間の利害対立を明らかにしていきます。	(1)国際関連の報道から現在の国際情勢や変化を正確に捉え、経済学の観点から国際間の関係について論じることができるようになること。 (2)経済理論と国際関連データを応用し、国際関係の改善について論理的に自分の考えをまとめられるようになること。	◎	●			
		MNG-131	マーケティング基礎論	講義	2		1		○		マーケティングとは、企業にとって、顧客を創造し、企業を成長させ、企業の未来を切り開いていくために必要なもの（考え方）である。 本授業では、商業の基本的な考え方を説明し、顧客を誰にするのか、競合他社とどう違いをつくっていくのかといった企業が実際に行うマーケティング活動について説明を行う。授業では商業とマーケティングの基本的な考え方について、ケース（事例）を交えながら分かりやすく解説していく。 本授業は、「商業・マーケティング分野」の基本的な知識を身に付けるための授業である。	(1)商業とマーケティングに関わる基本的な概念と理論を修得し、身近な企業の事例について、それらの視点から分析・考察できるようになる。	●	◎			
		MNG-132	消費者行動論	講義	2		1	○			本授業は消費者行動の基本的な考え方を会得するマーケティング分野の入門科目である。 企業は、消費者（顧客）が求め、さらに満足する商品を提供できなければ、市場で生き残ることは困難となる。そのため、企業活動とくにマーケティングにおいて消費者の行動についての理解が必要不可欠である。消費者の購買・心理プロセス、それに影響を与える個人要因、社会的要因等を理解し、我々が日々行っている消費者としての行動についての理解を深めたい。授業では、理論を学んだあと、ケース（事例）分析や演習による討議・発表形式でですすめていく。 本授業は、「商業・マーケティング分野」の基本的な知識を身に付けるための授業である。	(1)消費者行動における基本的な概念や理論を理解し、ケース分析を通じて、消費者に関することの分析や考察ができるようになる。また消費者としての日常の行動について分析できるようになる。	●	◎			
		MNG-141	簿記原理Ⅰ	講義	2		1	○			企業は日常的にさまざまな取引を行なっています。それらは、金額を用いて記録・整理されます。 簿記原理Ⅰでは、主に仕訳という方法を用いて、記録・整理する手続について学びます。本科目は覚えてほしい内容がたくさんあります。そのため学習内容を理解するためには、たくさんの問題に取り組むことが必要になります。そこで、毎回の授業では問題集を活用して授業を行います。 なお、日頃の学習の成果を測るために、秋セメスターに日商簿記検定3級試験を受験してもらいます。検定試験に合格することは、将来の就職活動のためになるだけではなく、これから経営学を学ぶ上での基礎となるため重要です。	(1)複式簿記の基本的なルールを理解した上で、企業で行われている取引が仕訳できることを目的とする。	●	○	◎		
		MNG-142	簿記原理Ⅱ	講義	2		1		○		簿記原理Ⅰでは、企業の取引を記録するための仕訳を中心に学びました。 簿記原理Ⅱでは、仕訳された取引を試算表や精算表に、さらには貸借対照表、損益計算書にまとめる方法について学びます。その他に、伝票等を用いた記録の方法について学びます。　また、日頃の学習の成果を測るために、1月の期末試験実施前に日商簿記検定3級試験を受験してもらいます。検定試験に合格することは、将来の就職活動のためになるだけではなく、これから経営学を学ぶ上での基礎となるため重要です。	(1)簿記原理Ⅰで学んだ仕訳ならびに基本的なルールを用いて、試算表や精算表といった帳簿が作成できる。また、日商簿記3級試験を受験ならびに合格できることを目的とする。	●	○	◎		
		MNG-221	経営者論	講義	2		2	○			本講義は、経営学概論の基礎知識をもとに企業家と経営者の機能、役割、意義を学ぶ。具体的にはイノベーションの担い手となった革新的企業家の動向に注目し、その特徴を理解する。また、その時代背景として日本の経済発展の流れを学ぶ。歴史的な素材だけでなく、最近の経営者についても取り扱う。	(1)経営者の行動について、特に革新的企業家の事例から特徴を理解し、説明できることを目的とする。	○	●	◎		
		MNG-212	キャリア開発論	講義	2		3			企業におけるキャリア形成の実際（常陽銀行連携講座）	この科目は、複数の企業の人事担当者を招いて、その会社の人事制度やキャリアパスおよびその支援体制について解説していただきながら、企業内でのキャリア形成の実際を深く理解するための授業である。授業では、人事担当部署長による全体的な解説講義だけでなく、入社後数年以内の若手社員による仕事内容や働き方に関する体験談を踏まえた紹介講義も予定している。講義を担当する企業は第1回の授業で告知する。 この科目は経営学科3年生の必修科目であり、就職活動が開始される時期に合わせて秋セメスターに開講される。就職活動では、業種や会社によって異なる職務内容やキャリア形成の仕方をよく理解したうえで、志望する会社を見つけていくことが望ましい。この授業を通して、入社後における自身のキャリア形成を展望する視点と知識を身に付けてもらいたい。 なお、本科目は常陽銀行による連携講座である。	(1)実際の企業におけるキャリア形成の仕方や制度について深く理解し、さらに就職活動に臨んで、企業側の説明に対して疑問に感じた点について適切な表現方法を用いて質問を行うことができることを目的とする。			●		
		MNG-213	国際ビジネス論	講義	2		2	○			企業が外国においてビジネスを行う場合、国内でビジネスする場合と何がどのように異なるのか、その難しさと可能性について学ぶ。また、教科書に沿いながら、茨城県県北・県央における中小企業の国際化をとりあげ、より身近な問題として、具体的事例を多く取り上げつつ国際展開の実際を学ぶ。担当教員は長年多国籍企業に勤務し豊富な海外勤務の経験も活かす。	(1)学生は多国籍企業がなぜ、どのように海外直接投資を進めるのか、その歴史や理論を学ぶのみならず、茨城県中小企業の国際化を学ぶことを通じて、国際経営をより身近なものとして理解できるようになる。	◎	●	○		
		MNG-112	ビジネス基礎演習	演習	4		1	○	○		この科目は、総合政策学部経営学科の1年生を対象にした通年の必修科目である。春セメスターでは、ホームページとEDINETを利用して、実際の企業の実像を調査する。秋セメスターでは、それらの情報を整理・分析する知識と技術を身に付け、最終的に同業他社との比較分析とその発表を行う。この科目は、身近な企業の実像を知ることによって、経営学に対する興味と有用性への意識を高め、他の講義科目で学ぶ抽象的な概念や理論の理解度を高めることを狙いとしている。	(1)企業の公式ホームページやEDINETなどで公開されている情報を用いて、企業の基本的な情報を読み取ることができるようになる。さらに、それらの情報を、同業他社と比較しながら、パワーポイントにまとめて説得力あるプレゼンテーションを行うことができるようになる。	●	◎	●	○	

常磐大学　総合政策学部　経営学科　履修系統図（表形式）【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連（学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項）

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	配当学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 （授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等）	学生の学修目標 （到達目標）	1.基本的読学力、情報処理能力を修得し、経営、マーケティングおよび財務・会計に関する基礎知識について説明できる。（知識・理解）	2.グローバル化する社会にあって、経営（マネジメント）という観点から課題を解決する調整能力を備えている。（思考・判断）	3.実務に対応した専門性を高めようとする真摯な態度と意欲を身につけている。（態度）	4.地域経済において直面する問題を解決するコミュニケーション能力とリーダーシップを備えている。（技能）	＜SDGsの17のゴールとの関連＞ 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ ①：貧困をなくそう ②：飢餓をゼロに ③：すべての人に健康と福祉を ④：質の高い教育をみんなに ⑤：ジェンダー平等を実現しよう ⑥：安全な水とトイレを世界中に ⑦：エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧：働きがいも経済成長も ⑨：産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩：人や国の不平等をなくそう ⑪：住み続けられるまちづくりを ⑫：つくる責任つかう責任 ⑬：気候変動に具体的な対策を ⑭：海の豊かさを守ろう ⑮：陸の豊かさも守ろう ⑯：平和と公正をすべての人に ⑰：パートナーシップで目標を達成しよう
経営・マネジメント分野		MNG-311	ビジネス専門演習	演習	4		3	○	○		経営・マネジメント分野、商業・マーケティング分野、財務・会計分野の3分野から専攻する分野に分かれ、これまでに学んだ知識や理論をもとに、実際の企業の課題について、グループワーク等を通じて、調査・分析を行う（課題の解決策を提示し、さらに解決策を実施することもある）。調査・分析の取り組みは、成果として報告書にまとめられることになる。	（1）地域の企業が抱えるビジネスの課題とは何か理解できるようになる。課題解決のためのアイデアをグループで討議し、新たなビジネスのアイデアを創造できるようになる。講義科目で学んだ専門的な諸理論の現実的な意味と具体的な利用方法を身につけることができるようになる。	◎	●	●	◎	
		MNG-312	能力開発演習	演習		2	3	○		時事問題を理解し、基礎力をつける	現代企業は常に能力を高め、コミュニケーションによるチームワークが取れる人材を求めています。特に、経営環境や技術の進歩は速く、自律的に経営環境を分析し、技術に対応する積極的な学習態度が必要です。 こうした現実に鑑み、本演習ではこれからのキャリア展開を考え、ビジネス社会で活躍する上で必要な戦略スキル及び方法論の獲得に向けた演習をします。 この演習では4名の教員が分担しながら、実践的な方式で授業を展開し、就職活動の際に企業が求める能力の向上を目指します。その際、授業の内容に応じて対面と遠隔を使い分けることにより、高い教育効果を実現します。	（1）働く者としての基礎知識を理解し、自分の志向と適性に合った業界や企業を探索し、そこでの採用方針を把握し、自分の個性や経験を的確に表現し、他者と意見交換や共同作業を円滑に遂行する能力を身につけることを目的とする。	◎	●	●	○	
		MNG-214	基礎ゼミナール	演習	2		2	○			学びの基礎Ⅰ・Ⅱを受けて、2年生春の必修授業であり、2年生秋に始まるゼミナールⅠへの架け橋となる授業である。本授業は、前半において「ゼミナールとは何か」を学び、2年時秋セメ以降始まるゼミ活動の準備とするとともに、広く世界的な問題について知見を深めるために国内外の諸問題について集中的に学ぶ。	（1）この授業を通じて学生は自分が2年時秋セメスターから卒業に至るまでの研究テーマに関する問題意識を持ち、ゼミ選択にあたり明確な志と問題意識を持って臨めるようになる。	◎	●	○		①～⑰
		MNG-222	経営学特論	講義	2		2		○		本講義は、経営学概論を基礎として、さらに経営学全般の体系的知識を広く学ぶ。そして、経営（マネジメント）の知識の有無を資格として認定するマネジメント検定試験Ⅲ級対策であり、マネジメント検定試験Ⅲ級の合格を目指すものである。	（1）マネジメント検定試験Ⅲ級の合格を目的とする。	●	◎			
		MNG-223	経営戦略論	講義	2		2	○			本講義は、経営戦略論の基本を実際の事例を交えながらの講義を通じて理解する。	（1）経営戦略論に関わる基本的な理論、概念やフレームワーク、知識等を理解し説明できるようになる。また、経営戦略論で学んだことを実際に使いこなし、現実の企業の戦略マネジメントを分析・考察することができるようになる。	●	◎			①～⑰
		MNG-224	経営組織論	講義		2	2		○		本講義は、「組織」というものの基本的な理解から始まり、その行動や構造、発展のメカニズムを明らかにする。授業では営利組織である企業だけではなく、政府・自治体や非営利組織（NPO）など幅広い組織を取り上げ、営利・非営利、官・民など異なる組織の比較からそれぞれの特徴を明らかにし、多様な組織についての理解をすすめる。	（1）現代社会の基本的な構成要素のひとつである「組織」について、その基本的な概念・知識を身につけることができるようになる。さらに獲得した概念・知識を、具体的な組織のさまざまな行動の考察に応用できるようになる。	●	◎			
		MNG-225	企業論	講義		2	2	○			意識する、しないに関わらず、私たちの生活は企業と密接に関連している。企業が存在しなければ、現在の生活を送ることは不可能かもしれない。それでは、企業とは何か。また、なぜ存在するのであろうか。そしてその役割はどのようなものか、といったことを考えながら理解してもらいたい。講義では、企業に関する基本的な事項に加え、リアルタイムで関心事となっているトピックについて、具体的な事例を多く紹介しながら、理論的実践的に解説する。	（1）この授業を通じて受講生は、「企業について様々な角度から見る目」を養うことができる。特に、環境と社会、利益とコスト、技術革新といった角度から現代の企業と経営を、鋭く、かつ多面的に捉える視点を養うことを目的とする。	◎	●			
		MNG-226	企業倫理	講義		2	2	○		会社にとって「いいこと」って何だろう	企業の不祥事が報じられるたびに、企業倫理が論じられます。そこで、この授業では倫理と企業倫理から解説し、CSR、コーポレートガバナンスなどの問題、さらに経営理念にも触れていきます。	（1）企業倫理をめぐる様々な内容と経営理念の重要性について、十分な理解を行い、説明できる力をもち、課題を発見することができるようになる。	◎	●			
		MNG-227	人事労務管理論	講義		2	2		○	人的資源の立場から	ヒト・モノ・カネ・情報をして経営資源というが、ヒトとは人材・人的資源のことである. 現代企業においては、個人で完結する仕事というのは、ほとんどない. 多くが組織として行う仕事であり、その手順は戦略に沿った組織的行動でなければならない. かつては人事管理や労務管理と呼んだ従業員の管理が、現在では人的資源管理と呼ばれる理由も、ヒト＝コストではなく、戦略の遂行と人物の両面を重視すればこその呼称の変化なのである. 故に、社員は人材として有機的に連結し、成果を上げなければならない. バブル崩壊以降、企業戦略に資する人材にするために、育てる人材育成へと舵を切る企業が増えた. つまり、インフローの厳格化とともに企業内部でのジョブローテーションなどの内部フロー、退職後を見据えたアウトフローなどの場面と、若手・ミドル・シニアなどの職位ごとの人材育成がクロスして、組織として戦略を遂行することができるのである. 本講義は、「将来のビジネスリーダー育成という観点」「専門性と創造性を高め…職業生活や社会生活を」営むなど多方面でキャリア形成をするための基礎能力の獲得を目的とする.	（1）経営学の上に組織と戦略に並列して人的資源管理の重要性を認識するとともに、今後活躍するための基礎力をつけることを目的とする。	◎	●			
		MNG-228	中小企業経営論	講義		2	2		○		前半の3回は日本における中小企業の概念、歴史、特徴などについて論じる。その上で4回目以降は茨城県における中小企業の経営者を招き、各社の事業発展の経緯、技術やマーケティング展開について話を聴き、中小企業経営の実際について学ぶ。	（1）学生は中小企業がいかに日本の産業にとって重要な存在であるかを理解できるようになる。また今後の中小企業のあるべき姿や望ましい政策についても考え、提言できるようになる。		◎	●	○	
		MNG-321	ベンチャービジネス論	講義		2	3	○		世界を変える小さな会社を理解する	日本の会社の9割以上は中小企業やベンチャー企業とよばれるものです。それら企業が経済に与える影響はきわめて大きいものがあります。国際学との関連として世界に視野をうつせば、イノベーションを引き起こしたベンチャー企業が世界中に数多く存在します。それらは短期間に急成長し、それまでの大企業を追い抜き、社会を変えた会社です。この授業では、ベンチャービジネス分野の幅広い基礎知識を身に着けます。	（1）ベンチャー企業や中小企業がどういうものなのかの理解を深め、企業家の性質を把握し、開業の基礎知識を身に着けることを目的とする。IPOとVCの役割の理解を深め。ファミリービジネスと永続する経営がどのようなものかを理解できるようになる。		◎	●		
		MNG-322	国際経営論	講義		2	3		○		最初の5回は一般的な国際経営論の理論を学ぶ。その上で、後半の10回は教科書に沿いながら、現在起きつつある多国籍企業の変化や様々な現象について学んでいく。担当教員は長年多国籍企業に勤務し豊富な海外勤務の経験も活かす。	（1）学生は理論と実際の両面において国際経営をより身近なものとして理解できるようになる。また、教員とともに教科書を購読するが、教員が逐一分かりやすく解説を加えることにより、高度な国際経営論の先端的な議論を理解できるようになり、大学生として学問的な自信がつくようになることを目的とする。		◎	●	○	

常磐大学　総合政策学部　経営学科　履修系統図（表形式）【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連（学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項）

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	配当学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題（授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等）	学生の学修目標（到達目標）	1.基本的語学力、情報処理能力を修得し、経営、マーケティングおよび財務・会計に関する基礎知識について説明できる。（知識・理解）	2.グローバル化する社会にあって、経営（マネジメント）という観点から課題を解決する課整能力を備えている。（思考・判断）	3.実務に対応した専門性を高めようとする真摯な態度と意欲を身につけている。（態度）	4.地域経済において直面する問題を解決するコミュニケーション能力とリーダーシップを備えている。（技能）	＜SDGsの17のゴールとの関連＞ 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ ①：貧困をなくそう ②：飢餓をゼロに ③：すべての人に健康と福祉を ④：質の高い教育をみんなに ⑤：ジェンダー平等を実現しよう ⑥：安全な水とトイレを世界中に ⑦：エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧：働きがいも経済成長も ⑨：産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩：人や国の不平等をなくそう ⑪：住み続けられるまちづくりを ⑫：つくる責任つかう責任 ⑬：気候変動に具体的な対策を ⑭：海の豊かさを守ろう ⑮：陸の豊かさも守ろう ⑯：平和と公正をすべての人に ⑰：パートナーシップで目標を達成しよう
学科専攻科目	商業・マーケティング分野	MNG-231	サービス産業論	講義		2	2		○		現在、「形のない財」であるサービスを提供する産業（旅行、飲食、小売、教育、医療、レジャー、スポーツ等）が、日本における経済活動の中（付加価値、就業者）で大きな割合を占めている。本授業ではサービスをマーケティングの視点から論じ、サービスについての理解を深め、またサービス組織のマネジメントについても取り上げる。 本授業は、講義で理論を学んだあと、ケース分析や演習による討議・発表形式ですすめていく。本授業は「商業・マーケティング分野」の専攻科目であり、マーケティング基礎論と消費者行動論を履修済みであることが望まれる。	(1)物的財との違いを踏まえ、サービスとは何か十分に理解でき、またサービスについてマーケティングの視点から分析や考察ができるようになる。 (2)販売士検定(3級)を受験するための知識を身につけている。	◎	●	○		
		MNG-232	広告論	講義		2	2	○			マーケティングの中でも広告は、顧客接点をつくる重要な役割を担い企業のビジネス成長においても欠かせない存在である。本科目においては、広告の基本的な概念を体系的に説明し、広告理論と実務を網羅的に理解してもらことを目的とする。近年、飛躍的に成長しているデジタルメディアの詳細についても取り上げる。 本科目の担当は、民間企業で実務経験を有する実務家教員による授業となり、広告の理論と実務の融合の観点から、広告業界のトレンド、広告プランニングスキルについて事例を織り交ぜて講義する。	(1)企業活動の中で広告がどのような役割を担っているのか、広告業界の取り巻く環境について理解し説明できるようになる。 (2)学術的な広告の概念を理解し説明できるようになる。 (3)広告実務（広告戦略・広告計画）で求められる基本スキルの習得を目的とする。		◎	●		⑧⑨⑰
		MNG-233	観光経営論	講義		2	2		○	観光経営の実際（（一社）水戸観光コンベンション協会連携講座）	「観光」に携わる多様なプレイヤーを講師（ゲストスピーカー）として招き、講師の生の話を聴き、質疑応答を交えることで、多面的な観光の実像に触れるとともに、これまで履修した基礎的な経営学の知識で観光を捉えることで、観光に対する理解を深める。 講義では、MICE、インバウンド、広域観光、コンテンツ観光、スポーツツーリズム、地域資源の開発・ブランディング等の観光における新しい動きにスポットをあてるとともに、旅行業・宿泊業・交通業といった観光産業の基本とされる業界における既存のマスプロ型観光を打破する新しい試みを取り上げる。また、「魅力度」など観光の周辺に存在するトピックについても理解を深める。そして、観光産業は、コロナ禍によるダメージが最も深刻な産業の一つと言われているが、この逆境を切り抜け、未来の躍進に向けた取組みにも注目して欲しい。 なお、本授業は、常磐大学との包括連携協定に基づく（一社）水戸観光コンベンション協会が提供する連携協定講座である。 本授業は、「商業・マーケティング分野」の基本的な知識を身に付けるための授業である。	(1)多様な主体間の連携関係の構築、精力的な行動力等を持つ観光のプレイヤーの話を聴き、議論を行うことにより観光経営への理解を深め、観光についての新しい発想ができるようになる。	◎	●	○		
		MNG-331	商品戦略論	講義		2	3	○			商品戦略はマーケティング・ミックス（4P）において要となるものである。本授業は、企業の戦略的な視点そして組織的な視点から、商品の開発や販売のプロセスについて体系的な説明を行う。 本授業は、講義で理論を学んだあと、ケース分析や演習による討議・発表形式ですすめていく。本授業は「商業・マーケティング分野」の専攻科目であり、マーケティング基礎論と消費者行動論を履修済みであることが望まれる。	(1)商品とは何であるのか、また商品を開発し販売していくためにはどうすればよいのか十分に理解し、一般的な商品の企画書を作成できるようになる。		◎	●	○	⑨⑫
		MNG-332	流通産業論	講義		2	3		○		本科目は、商業・マーケティング分野の基本的知識を習得していることを前提に小売・卸売・物流の基本的枠組みについて解説します。講義の前半は、生産と消費をつなぐ流通のしくみ、小売業を中心に商業・マーケティングの取組事例について学習します。講義の後半は、物流、情報システム、卸売業、流通構造、企業における流通戦略、流通の取り巻く環境など最新動向を交えた流通のダイナミクスについて、理論と現実の両面から学んでいきます。本科目の担当は、民間企業で実務経験を有する実務家教員による授業となり、流通産業の理論と実務の融合の観点から、流通ビジネスの事例及び流通におけるICT活用について補足し講義を行う。	(1)商業・マーケティングに関する事象について、学習した理論を用いて体系的に説明することができる。 (2)流通業界のトレンドやビジネスモデルの理解を深めることで、今後の進路選択や販売士(3級・2級)などの資格取得に向け理解を深めることを目的とする。		◎	●		⑧⑨⑪
		MNG-234	ICTマーケティング	講義		2	2	○			現在、社会のあらゆる場でICT（Information Communication Technology、情報通信技術）化が急速に進展しており、企業においてもICTを活用したマーケティングの重要性がますます高まっている。このような現状を踏まえ、企業のICTを活用したマーケティングの実際的な知識を修得することが本授業の目的である。とくに企業のウェブサイト制作のプロセスや技術などについて、実際の制作者・担当者から具体例の解説が行われる。	(1)ICTマーケティングに関する実際的な知識を習得できるようになる。 (2)ITパスポート試験に出題される可能性のあるマーケティング分野の基礎知識を得ている。	●	◎	●	○	⑧⑨
		MNG-235	ビジネスICT演習	演習		2	2		○		現在、社会のあらゆる場でICT（Information Communication Technology、情報通信技術）化が急速に進展しており、企業においてもICTを活用したマーケティングの重要性がますます高まっている。その中でも、重要な手法はウェブサイトである。そこで本科目は、ウェブサイトを制作するための理論と技術の基本を学び、ウェブマーケティングの基礎技能を修得する。本授業は、「ICTマーケティング」の単位を取得した人を前提に実施する。	(1)マーケティングのためのウェブサイト制作に関する基礎的な技術を習得できるようになる。 (2)ITパスポート試験に出題される可能性のあるプログラミング分野の基礎知識を得ている。	●	◎	●	○	⑨
		MNG-236	マーケティング演習	演習		4	2	○	○		本授業は、通年の授業であり、経営学科の実践的科目の1つである。授業ではマーケティングの考え方を学ぶために、実践的な課題をセメスター毎に設定し、チームで問題解決に取り組む。実践的な課題は、実際に企業や行政機関が有しているものであり、学生がマーケティング関係科目での学びの成果を活かして、学生ならではの視点で解決に導いていくことを目指す。大学外でのヒアリングや調査活動、イベント参加が年に2回以上含まれる。授業はグループワークの形式で行われる（ディスカッションやプレゼンテーションを含む）。 本授業は実社会で求められる実践的能力を身に付けるための授業である。	(1)マーケティングの考え方を使って、プロジェクトを計画・準備・実施できるようになる。 (2)マーケティング・リサーチの進め方を理解し、データの収集・整理・分析ができるようになる。 (3)学外の関係者へのプレゼンテーションのための資料準備・発表・質疑応答ができるようになる。		●	◎		⑪⑰

常磐大学　総合政策学部　経営学科　履修系統図（表形式）【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連（学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項）

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 （授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等）	学生の学修目標 （到達目標）	1.基本的語学力、情報処理能力を修得し、経営、マーケティングおよび財務・会計に関する基礎知識について説明できる。（知識・理解）	2.グローバル化する社会にあって、経営（マネジメント）という観点から課題を解決する調整能力を備えている。（思考・判断）	3.実務に対応した専門性を高めようとする真摯な態度と意欲を身につけている。（態度）	4.地域経済において直面する問題を解決するコミュニケーション能力とリーダーシップを備えている。（技能）	＜SDGsの17のゴールとの関連＞ 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ ①：貧困をなくそう ②：飢餓をゼロに ③：すべての人に健康と福祉を ④：質の高い教育をみんなに ⑤：ジェンダー平等を実現しよう ⑥：安全な水とトイレを世界中に ⑦：エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧：働きがいも経済成長も ⑨：産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩：人や国の不平等をなくそう ⑪：住み続けられるまちづくりを ⑫：つくる責任つかう責任 ⑬：気候変動に具体的な対策を ⑭：海の豊かさを守ろう ⑮：陸の豊かさも守ろう ⑯：平和と公正をすべての人に ⑰：パートナーシップで目標を達成しよう
財務・会計分野		MNG-143	ファイナンス基礎論	講義		2	2		○	金融と証券	現在、世界的な金融不安が実際の経済実態や企業行動に大きく影響を与えている。こうした今日の経済社会において、ファイナンスの知識の重要性はますます高まっている。この講義では、金融や証券に関する基本的な知識を分かりやすく解説することを目的とする。なお、この科目は経営学科における財務・会計分野の基礎となる科目であるため、財務・会計分野を志望する人は2年次に履修する必要がある。 この科目は、近年金融機関の採用において重視されつつある「外務員資格（証券外務員資格）」の試験範囲を部分的に盛り込みながら講義していく。したがって、銀行や証券会社、保険会社などへの就職を希望する人には有効な講義内容となる。	(1)ファイナンスに関する基礎的な知識を習得できるようになる。さらに、外務員試験（証券外務員資格）の受験意識を高めることができるようになる。 (2)ファイナンシャル・プランニング技能検定（3または2級）に出題される可能性のある金融資産運用分野の基礎知識を得ている。	●	◎	●	○	
		MNG-144	会計学概論	講義		2	2	○			会計は、企業活動に必要な資金の管理、資金等の情報を記録するための理論であり、それを報告する手続きです。1年次に学習した簿記原理Ⅰ・Ⅱでは、取引の記録の仕方とて仕訳等を学びました。 本科目では、簿記の知識をより深めるために会計学に関する基本的な事項を取り上げ、解説します。さらに、会計学と関連する簿記3級や2級の内容も取り上げます。	(1)会計に関する基本的な知識を習得し、その役割が理解できるならびに企業が作成する貸借対照表と損益計算書の構造が理解できることを目的とする。	●	○	◎		
		MNG-145	金融概論	講義		2	2	○			金融業（とくに銀行業）についての基本的な知識と、銀行における各種業務の特質について講義する。この科目は、株式会社常陽銀行との連携を予定しており、常陽銀行の現職行員による講座が行われる。	(1)金融業（とくに銀行業）に関する基本的な知識と、銀行における各種業務の特質について理解することができるようになる。さらに、銀行に勤務する際に必要な資質を身につけることができるようになる。 (2)ファイナンシャル・プランニング技能検定（3または2級）に出題される可能性のあるライフプランニング分野の基礎知識を得ている。	●	◎	●	○	
		MNG-241	経営分析論	講義		2	2	○		ビジネス会計検定3級に向けて	企業が継続的に活動するためには、利益の獲得が必要である。この利益を認識するためには、企業の活動を貨幣的価値により計算・記録する必要がある。最終的にこれらの情報は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表としてまとめられる。 経営分析は、財務諸表から企業の経営がどのような状態にあるかを判断、評価するための手法である。 本講義では、財務諸表と経営分析に関する基本的な事項を取り上げ、解説する。	(1)上場企業の財務情報に自分でアクセスできるようになるとともに、財務諸表の構造と情報特性を理解した上で、企業の経営実態を正しく把握できる能力を培うことを目的とする。授業全体を通して「ビジネス会計検定3級」の取得レベルを目指すことを目的とする。	◎	○	●		
		MNG-242	管理会計論	講義		2	2		○		管理会計は、企業内部で利用される数値で表わされる情報であり、企業を経営するうえで、重要な位置を占めるものです。たとえば、製品の生産にいくら費用がかかるかを知らなければ、いくらで販売すればよいかを判断することはできません。また、ある製品について自社で生産すべきか、他社から購入したほうがよいか判断しなければなりません。 こうした情報を提供するのが管理会計の役割です。 そこで本講義では、経営管理に必要となる原価計算や意思決定といった基本的な事項を取り上げ、解説します。	(1)原価計算や意思決定等の役割や管理会計の一般的な知識を理解し、それらに関連する問題を実際に解くことができるようになることを目的とする。	◎	●	○		
		MNG-243	中級簿記	講義		2	1	○			簿記原理Ⅰ・Ⅱは株式会社の取引の基本的な記帳技術を学ぶのに対し、中級簿記ではより複雑な取引の記帳技術を学びます。とくに本科目は日商簿記検定試験2級レベルの商業簿記の仕訳を中心に学びます。 日商簿記2級は、商業簿記と工業簿記から出題されますので、秋セメスターの工業簿記と併せて受講することが望ましいです。なお、工業簿記の履修者は秋に実施される日商簿記2級を受験してもらいます。	(1)簿記原理Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を基礎として、より複雑な記帳ができること、日商簿記2級試験に合格する力をつけることを目的とする。	◎	○	●		
		MNG-244	工業簿記	講義		2	1		○		工業簿記は、製品を製造するのにいくらかかったか、製品1個がいくらでできているのかを計算するための方法ならびにそこから得られたデータをもとに記録をする方法です。 この科目では、日商簿記2級レベルの製品原価の計算（原価計算）の手法および記帳方法についての基本的内容を学習します。 日商簿記2級は、商業簿記と工業簿記から出題されますので、春セメスターの中級簿記と併せて受講することが望ましいです。この科目の履修者は秋に実施される日商簿記2級を受験してもらいます。	(1)工業簿記および原価計算の基本構造を理解し、日商簿記2級に合格する力を付けることを目的とする。	◎	○	●		
		MNG-341	上級簿記	講義		2	1		○		上級簿記は、将来、公認会計士や税理士といった資格取得を目指す学生、経理職に就きたい学生、国税専門官として働きたい学生、より簿記の知識を深めてみたいと考えている学生に高度な簿記の知識を身に付けるための講座です。グローバル化やIT化により、取引は複雑になっており、適切な会計処理を判断することができる能力の必要性と重要性は増すばかりです。本講座では、前半は日商簿記検定2級(商業簿記)の内容の復習と基本的な会計理論を学習し、後半は日商簿記検定1級(商業簿記・会計学)と税理士試験の内容を学習します。	(1)単純な暗記ではなく、簿記の本質を理解することができるようになる。 (2)基本的な簿記理論から応用的な簿記の考え方まで広く深い知識を得ることができるようになる。 (3)実務に直結した講義により現実の世界で行われている簿記のイメージをつかめるようになる。 (4)税理士試験に出題される可能性のある会計学分野の基礎知識を得ている。	◎	◎	●		
		MNG-342	原価計算論	講義		2	1		○		普遍性のある伝統的な原価の計算方法を理解することで、製品原価がどのように計算され、体系づけられているのかを学修します。また、異なる計算方法により異なる原価が算定されることを学修します。原価を出発点として、原価企画、損益分岐点分析及びABC（活動基準原価計算）並びに意思決定会計といった原価管理と利益管理の双方を考える機会を提供します。原価計算、工業簿記、管理会計を含む内容を取り扱います。 前半は日商簿記2級の内容を取り扱い、後半で日商簿記1級や全経上級といった高度な内容を取り扱います。本講義の受講を通じて、日商簿記2級及び日商簿記1級や全経上級の合格を目標として頂きたいと考えています。	(1)原価計算における費目別計算、個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算、ABC（活動基準原価計算）といった原価計算ができるようになる。 (2)収益と費用及び原価データを使用して、損益分岐点分析及び意思決定会計といった考え方をマスターし、原価管理と利益管理の両面を意識した原価計算ができるようになる。	◎		◎	●	
		MNG-344	財務管理論	講義		2	3	○			激しい競争が展開される中で生き残りをかける企業にとって財務管理は重要である。現代の企業は財務管理についての従来の考え方や手法の転換を求められており、また現実に、そのような転換が進みつつある。本講義は、現代企業が求められる財務管理に関する様々な知識や理論などを、実例と共に解説する。	(1)財務管理に関する基礎的な知識や理論を身につけるとともに、企業における実際の財務管理状況を把握できるようになる。	●	◎	●	○	
		MNG-345	地域金融論	講義		2	3	○			社会人として必要とされる金融や地域社会の基礎的な知識について、地域金融機関の活動やあり方を通じて習得することを目的とする。茨城県内の金融を担う地域金融機関（水戸信用金庫）の支援を得て講義項目を構成する。毎回の講義時間の一部において、「社会力を高める演習」と題し、実際の地域企業や金融機関における経営や就労環境等に関する説明を行うことで「就活」の参考情報を提供する。秋セメスターにおいて地域金融システム論の受講を推奨する。	(1)地域社会と金融との関わり、経済活動と金融との関わりを学ぶことで、地域金融機関の役割や特徴についての理解を深め、各種メディアやネット上の多様な情報から、地域社会の実態、金融・経済の実態を、自分の頭で考えることのできるレベルに到達することを目的とする。	●	◎	●	●	

常磐大学　総合政策学部　経営学科　履修系統図（表形式）【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連（学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項）

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	開講学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 （授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等）	学生の学修目標 （到達目標）	1.基本的語学力、情報処理能力を修得し、経営、マーケティングおよび財務・会計に関する基礎知識について説明できる。（知識・理解）	2.グローバル化する社会にあって、経営（マネジメント）という観点から課題を解決する課整能力を備えている。（思考・判断）	3.実務に対応した専門性を高めようとする真摯な態度と意欲を身につけている。（態度）	4.地域経済において直面する問題を解決するコミュニケーション能力とリーダーシップを備えている。（技能）	＜SDGsの17のゴールとの関連＞ 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ ①：貧困をなくそう ②：飢餓をゼロに ③：すべての人に健康と福祉を ④：質の高い教育をみんなに ⑤：ジェンダー平等を実現しよう ⑥：安全な水とトイレを世界中に ⑦：エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧：働きがいも経済成長も ⑨：産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩：人や国の不平等をなくそう ⑪：住み続けられるまちづくりを ⑫：つくる責任つかう責任 ⑬：気候変動に具体的な対策を ⑭：海の豊かさを守ろう ⑮：陸の豊かさも守ろう ⑯：平和と公正をすべての人に ⑰：パートナーシップで目標を達成しよう
関連科目		MNG-346	地域金融システム論	講義		2	3		○		春セメスターの地域金融論を発展的に展開し、地域と金融の歴史を元に、現在地域金融が直面する課題について多面的に考察し、課題を克服する具体的なアイデアと『明日の地域金融機関の姿』を受講生とともに考える。そのための発想法の学習や学外学習における現場取材を実施する。 茨城県内の金融を担う地域金融機関（水戸信用金庫）の支援を得て講義項目を構成する。毎回の講義時間の一部において、「社会力を高める演習」と題し、実際の地域企業や金融機関における経営や就労環境等に関する説明を行うことで『就活』の参考情報を提供する。春セメスターにおいて地域金融論の受講を推奨する。	（1）地域社会と金融との関わり、経済活動と金融との関わりを学ぶことで、地域金融機関の役割や特徴についての理解を深め、各種メディアやネット上の多様な情報から、地域社会の実態、金融・経済の実態を、自分の頭で考えることのできるレベルに到達することを目的とする。	●	◎	●	●	
		MNG-251	秘書学概論	講義		2	2	○			本科目は、秘書職のみならず、広くオフィスワーカーに必要とされる基本理論を、具体的な問題演習などを通じて身につけることをその第一の目標とする。講義の構成は「Ⅰ　基本的な理論を学ぶ」、「Ⅱ　問題演習により秘書業務の基本を身につける」、「Ⅲ　問題演習によりビジネス常識を身につける」の3部構成をとり、毎回講義プリントにより解説する。あわせて、課題演習も授業の終わりに毎回実施し、より実践的な秘書理論の理解を促す。	（1）秘書理論の基本を理解できるようになる。 （2）オフィスワークの基本を理解できるようになる。 （3）問題演習を通じて、ビジネスの基礎理論を帰納的に習得することができるようになる。 （4）問題演習を通じて、就職活動にも役立つ、さまざまなビジネス常識を身につけることができるようになる。	◎	●	◎		
		MNG-351	秘書学演習	演習		2	2		○	基礎・一般的な秘書実務（敬語・訪問・電話、来客応対）	演習を通じて、現場で必要な実践的な応対力を身につけるための学習プログラムであり、そのねらいは次の3点である。 （1）秘書実務の意義と内容を理解できる。 （2）秘書実務に必要な対人コミュニケーションを身につける。 （3）事例や演習課題をもとに、状況に応じた秘書業務を習得できる。	（1）秘書実務の意義と内容を説明できるようになる。 （2）秘書実務に必要な基礎的対人コミュニケーションを実践できるようになる。 （3）秘書実務に必要な基礎的情報業務を実践できるようになる。		●	◎		
		MNG-152	ビジネス英語Ⅰ	講義		2	2		○	ニュースで学ぶ時事英語	アメリカのニュース番組であるCBSの「CBS This Morning」のDVDを教材として使用して世界の時事問題の理解を促進し、ニュースについての自分の意見や考えを育成します。ニュースを理解するための語彙や表現、様々な技術の向上のため、話題について英語を使ったペアやグループによるリスニング、スピーキング、ライティング活動を行います。	（1）放送されるニュースの大まかな内容を理解できるようになる。（聞く） （2）補助教材として使用される印刷されたニュースの内容を理解することができるようになる。（読む） （3）放送されるニュースについて、簡単な意見のやり取りができるようになる。（話す：やり取り） （4）放送されるニュースについて、自分の意見を簡潔に伝えることができるようになる。（話す：表現） （5）放送されるニュースについて、自分の意見を理論的に例証等もしながら150語程度の文章にまとめることができるようになる。（書く）	◎	●			①～⑰
		MNG-253	ビジネス英語Ⅱ	講義		2	2	○		英語で学ぶ「いま」	本授業は、英語で社会の諸問題を学修することを目的とする。 具体的には、教員の講義を主とした過去のニュース報道を収録した教科書を使用した学修のほか、学生が主体となってSDGsにかかる報道や企業の報告などのオーセンティックマテリアルを使用した学修（ディスカッションや発表報告含む）を行う。 コミュニケーション能力を伸ばすため、聴くこと・読むこと、話すこと・書くこと、相互にやりとりをすること、そして自分がどのように社会貢献できるかについて積極的に考える姿勢を身に付ける機会がある。日本国内外の諸問題を把握し、その解決策を多角的に検	（1）平易な英語で伝えられる海外の報道や報告が理解できるようになる。 （2）グローバル化する社会にあって、日本国内外の社会の諸問題ついて、以前よりも深い関心を持つことができるようになる。 （3）時事問題について多角的、批判的な思考をもって解決策を提案ができるようになる。	◎	●			①～⑰
		MNG-166	職業指導論	講義		2	2	○		幅広い視点から職業について学ぶ	・この科目は、教職（商業）を目指す学生の必修科目、教職を目指さない学生は選択科目として学修する。 ・製造業に加えてサービス業が拡大し、多様化が進む現在の社会では、どのようなライフスタイルが求められるのか、キャリアを考えるときには、どのような選択肢があるのかを学ぶ。 ・関心のある職業を選択し発表することを通して、職業の多様な側面をその産業との関わりの中で勉強し、伝わる報告の方法についても知見を深める。	（1）多様かつ調和のとれたキャリアデザインの意味を理解し、自分のキャリアプランを立てることができるようになる。 （2）幅広い視点からキャリアプランを考えるために、さまざまな社会の制度や慣習を学び、キャリア展開を理解できるようになる。 （3）様々な職業についての理解を深め、その特徴を説明できるようになる。	○		●	◎	③④⑧⑨
教職関連科目		－	商業科教育法Ⅰ	講義		2	2	○			本講義では、商業教育の意義やわが国の商業教育の歩みについて考察し、その後、高等学校学習指導要領(商業)の変遷及び現行学習指導要領(教科「商業」の目標・構造・各科目の目標・内容・内容の取扱い)に関する目標及び内容などについて解説する。 教科「商業」の専門科目の各分野において、生徒の主体的で対話的な深い学びの実現に向けた授業改善を図るため、各科目の特質に応じ効果的な学習展開を支援できるように単元ごとの内容や時間のまとまりを見通したうえで多様な学習を組み合わせて指導できるようにする。 基礎的・基本的な内容からビジネスの創造と発展的に主体的かつ協働的な取り組を指導及び支援するための資質・能力を養成する。	（1）商業高校における商業教育の意義や役割について理解することができるようになる。 （2）高等学校学習指導要領(商業)の変遷及び現行学習指導要領(教科「商業」の目標・構造・各科目の目標・内容・内容の取扱い)について理解することができるようになる。 （3）学習指導案の構成内容などについて理解するとともに、学問領域を踏まえた教材研究の他、情報機器の活用なども取り入れた学習指導及び評価方法等を修得することを目的とする。 （4）商業科教員としての専門的な知識の習得とそれらを総合的の活用・応用して幅広い観点からグローバル化する社会において実践的に貢献できる教員を目指すことを目的とする。	◎	●			
		－	商業科教育法Ⅱ	講義		2	2		○		学習指導案の作成や必要に応じて各種の発表などを行い、教師としての資質と能力を養っていきます。 また、商業科教育法Ⅰの学習内容を踏まえて商業科教育法Ⅱの授業を行います。 教科「商業」の専門科目の各分野において、生徒の主体的で対話的な深い学びの実現に向けた授業改善を図るため、各科目の特質に応じ効果的な学習展開を支援できるように単元ごとの内容や時間のまとまりを見通したうえで多様な学習を組み合わせて指導できるようにする。 基礎的・基本的な内容からビジネスの創造と発展的に主体的かつ協働的な取り組を指導及び支援するための資質・能力を養成する。	（1）学習指導案をもとに模擬授業ができ、これを踏まえた授業改善ができるようになる。 （2）模擬授業を通して、教科の学習評価を踏まえた授業評価ができるようになる。 （3）現行学習指導要領(教科「商業」の目標・構造・各科目の目標・内容・内容の取扱い）について理解するとともに、その説明ができるようになる。 （4）商業科教員としての専門的な知識の習得とそれらを総合的の活用・応用して幅広い観点からグローバル化する社会において実践的に貢献できる教員としての資質・能力を培う。	◎	●			
		THS-201	ゼミナールⅠ	演習	2		2		○		ゼミナールⅠでは学びの技法や基礎ゼミナール等で習得したアカデミックスキル（大学で学習するための基礎技能）を磨くとともに、卒業論文につながる準備を行う。具体的にはそれぞれの専門に即して、論理的な思考力の養成を行う。また口頭での発表を通じて、プレゼンテーションの能力を養う。	（1）「学びの技法Ⅰ」「学びの技法Ⅱ」や「基礎ゼミナール」などで培った基本的なアカデミックスキルの実践ができる。［行動］ （2）グループワークやディスカッション等、他者とのコミュニケーションを通じて、他者と協調・協働して学ぶことや、グループに貢献することの重要性が理解できる。［知識］ （3）ゼミで扱う専攻領域についての理解を深め、自分の言葉で概説できる。［知識］	◎	●	○		①～⑰

常磐大学　総合政策学部　経営学科　履修系統図（表形式）【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連（学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項）

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	配当学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 （授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等）	学生の学修目標 （到達目標）	1.基本的素学力、情報処理能力を修得し、経営、マーケティングおよび財務・会計に関する基礎知識について説明できる。（知識・理解）	2.グローバル化する社会にあって、経営（マネジメント）という観点から課題を解決する課題能力を備えている。（思考・判断）	3.実務に対応した専門性を高めようとする真摯な態度と意欲を身につけている。（態度）	4.地域経済において直面する問題を解決するコミュニケーション能力とリーダーシップを備えている。（技能）	＜SDGsの17のゴールとの関連＞ 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ ①：貧困をなくそう ②：飢餓をゼロに ③：すべての人に健康と福祉を ④：質の高い教育をみんなに ⑤：ジェンダー平等を実現しよう ⑥：安全な水とトイレを世界中に ⑦：エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧：働きがいも経済成長も ⑨：産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩：人や国の不平等をなくそう ⑪：住み続けられるまちづくりを ⑫：つくる責任つかう責任 ⑬：気候変動に具体的な対策を ⑭：海の豊かさを守ろう ⑮：陸の豊かさも守ろう ⑯：平和と公正をすべての人に ⑰：パートナーシップで目標を達成しよう
卒業研究	THS-202	ゼミナールⅡ	演習	2		3	○			ゼミナールⅡではゼミナールⅠに引き続き、学びの技法や基礎ゼミナール等で習得したアカデミックスキル（大学で学習するための基礎技能）を磨くとともに、卒業論文につながる準備をする。具体的にはそれぞれの専門に即して、論理的な思考力の養成を行う。また口頭での発表を通じて、プレゼンテーションの能力を養う。	(1)「ゼミナールⅠ」に引き続き基本的なアカデミックスキルの実践が維持でき［行動］、さらに、専門領域で推奨されるアカデミックスキルについての知識がある［知識］。 (2)グループワークやディスカッション等、他者とのコミュニケーションを通じて、グループの活動に貢献することができる［行動］。 (3)ゼミで扱う専門領域の視座から社会の事象（政治、経済、法律、行政、経営などの動向）に対して問題意識を持つことができ、さらに、課題が発見できる。［行動］	◎	●	○		①～⑰
	THS-301	卒業論文Ⅰ	演習	2		3		○		卒業論文Ⅰでは卒業論文とは何であるのか、また文献収集・情報整理の仕方について理解し、論文のテーマについて探求する。	(1)卒業論文を執筆するために必要な基本的なことが理解できる。［知識・態度］ (2)卒業論文作成にむけて必要な文章の生成ができる。［行動］ (3)プレゼンテーションなどの発信やグループワークなどの協働作業の機会において、自己の意見を他者に分かりやすく発信でき、また、ディスカッションにおいて、他者の意見を傾聴し、理解することができる。［行動］		◎	●	○	⑦⑨⑬
	THS-302	卒業論文Ⅱ	演習	2		4	○			卒業論文Ⅱでは、卒業論文を執筆するのに必要な調査等を行いつつ、執筆する。	(1)卒業論文を執筆するために必要な基本的なことが理解できる。［知識・態度］ (2)卒業論文作成にむけて必要な文章の生成ができる。［行動］ (3)プレゼンテーションなどの発信やグループワークなどの協働作業の機会において、自己の意見を他者に分かりやすく発信でき、また、ディスカッションにおいて、他者の意見を傾聴し、理解することができる。［行動］			◎	●	概要
	THS-303	卒業論文Ⅲ	演習	2		4		○		卒業論文Ⅲでは実質的な卒業論文の執筆を行う。	(1)学部学科の学びを反映する成果物としての卒業論文が作成できる。 (2)計画的に卒業論文に取り組むことができる。 (3)プレゼンテーションなどの発信やグループワークなどの協働作業の機会において、自己の意見を他者に分かりやすく発信でき、また、ディスカッションにおいて、他者の意見を傾聴し、理解することができる。［行動］			◎	●	概要

【2020年度以前適用カリキュラム】 常磐大学　総合政策学部　経営学科　履修系統図（表形式）【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

	MNG-212	ビジネス取引法	講義	2		2		○		企業（会社）のビジネス・経営は、さまざまな法律によって支えられあるいは規制を受けている。この授業では、会社の設立からビジネスの海外展開にいたるまで、その過程でのような法律が関わり、どのような場面でどのような法的問題が生じうるかという視点から、企業のビジネス展開の流れに沿う形で、関連する主要な法律をわかりやすく解説する。 経済のグローバル化、国内市場の縮小等から、身近な業種（コンビニ、外食産業等）にも海外展開が必要となっていることに鑑み、海外展開に関わる法律にも触れる。 この授業は、企業の経営（ビジネス）環境としての法制度を学ぶものである。	(1)ビジネス取引を実現する上で、知っておかなければならない法的常識や法的な基礎知識を理解することができるようになる。	◎	●	○		
	MNG-323	NPO・NGO経営論	講義		2	3	○			NPO・NGOを通して社会貢献活動を行っているだけでなく、自ら立ち上げる人も増えてきている。本授業は、教育・文化サービス事業の経営主体、行政のパートナーシップ形成主体、雇用創出主体など 様々な特性を持つNPO・NGOについての理解を深め、その意義と課題について考察していく。	(1)現代社会におけるNPO・NGOが果たす役割と、その課題について理解することができるようになる。		◎	●	◎	⑧
	MNG-324	企業経営と環境問題	講義		2	3		○		「教養ある職業人」として必要な経営学の応用分野である企業と環境の関係を体系的に学ぶための学習プログラムであり、そのねらいは次の3点。 (1)企業の持続的発展の体系的知識を理解する。 (2)企業と環境に関する記事を分析して理解する。 (3)最近のCSRの動向を分析する。	(1)持続的発展について具体的に理解できるようになる。 (2)最近のCSRの動向と環境戦略について理解し、分析できるようになる。 (3)企業と環境とに関する記事を理解し、分析できるようになる。	○	●	◎		①～⑰
	MNG-325	ビジネス関連法	講義		2	3		○		今日のビジネス活動はさまざまなかたちで法律による規制を受けることになる。 本講義では、東京商工会議所が主催する「ビジネス実務法務検定試験」の内容に準拠しながら、 民法（財産法と家族法）、商法、会社法、労働法、独占禁止法などの各種経済法、知的財産法などビジネスに関連するさまざまな法律の基本を学修する。	(1)企業活動をビジネス法の視点から考察できるようになる。 (2)ビジネス法務の全体像を理解できるようになる。 (3)東京商工会議所主催「ビジネス実務法務検定試験」に合格できる知識を身に付けられるようになる。		◎	●	◎	⑧
	MNG-333	ICT戦略論	講義		2	3	○			インターネットは汎用技術であり、インターネットが世界中の企業の在り方、経営の在り方、そして生活者を変化させている。これは情報革命であり、その渦中において生活者（消費者）の変容は著しく、特に情報の発信者として従来のマスメディアに劣らない、むしろ影響力のある個人も登場してきている。 そこで本授業では、情報を発信するとは何か、その実践を行うことによりICT（Information & Communication Tecnology）の本質をとらえ、情報革命の意味を理解できるようにする。 またICTの普及により、急速に職場環境や仕事の仕方が変化してきていることから、社会人になるための基礎知識として役立ててほしい。	(1)社会人になった際に重視される幅広い視野を育て、特に情報発信能力およびコミュニケーション能力を養うほか、情報管理能力を培うことを目的とする。特に分析・判断・企画・創造といった能力の向上を目的とする。		◎	●	◎	
	MNG-234	観光文化産業論	講義		2	2	○		観光地域活性化を考える	我が国は観光立国宣言、観光立国推進基本法の制定などを機に観光による地域活性化を各地域で取り組んでおり、そのためには地域文化資源が重要となる。地域文化資源はその価値や魅力に気付いていない、知られていないことも多々あり、その資源発掘には外部からの目も必要である。この講義の前半では、観光資源、文化財、山岳と中山間地、世界遺産、食と名産品、コンテンツなどの地域文化資源の概要と魅力を理解する。後半は、具体的な事例を用いて、その魅力と観光がもつ地域への効果を考え、幅広く地方の創生を学修する。 　幅広い観点からの知識を蓄え、現代社会で地域文化資源と観光に関する諸問題に対して、正当に評価できる能力と、解決策を導き提言・提案できる能力を有し、グローバル化する社会に貢献できる実践の能力を備えた人材を養成をする。 　なお、本講義は旅行記者、編集者として長年各地の観光状況を取材し紹介してきた実務経験を踏まえて、また観光庁や自治体観光行政の委員を務め観光地域資源や観光地域活性化を審査したことも活かした内容である。 「地域文化資源と観光」と合同開講	(1)観光事業、農水産や工業、飲食や物販、コンテンツ産業などと地域文化資源の関わりを理解できるようになる。 (2)地域の特性や魅力とその可能性に気づき、それらが産業や雇用を生み、地 域の人々の暮らしを豊かにする観光交流を促進するスキルと資質を身に付けるこ とを目的とする。 (3)最終的には、地域文化資源と観光で地方を創生し活性化する必要性と重要 性を認識し、地域社会の中でリーダーシップを発揮することで地域社会のニーズ に応える姿勢を身に付けることを目的とする。	◎	●	◎		

常磐大学　総合政策学部　経営学科　履修系統図（表形式）【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連（学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項）

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	開講学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 （授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等）	学生の学修目標 （到達目標）	1.基本的語学力、情報処理能力を修得し、経営、マーケティングおよび財務・会計に関する基礎知識について説明できる。（知識・理解）	2.グローバル化する社会にあって、経営（マネジメント）という観点から課題を解決する課整能力を備えている。（思考・判断）	3.実務に対応した専門性を高めようとする真摯な態度と意欲を身につけている。（態度）	4.地域経済において直面する問題を解決するコミュニケーション能力とリーダーシップを備えている。（技能）	＜SDGsの17のゴールとの関連＞ 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ ①：貧困をなくそう ②：飢餓をゼロに ③：すべての人に健康と福祉を ④：質の高い教育をみんなに ⑤：ジェンダー平等を実現しよう ⑥：安全な水とトイレを世界中に ⑦：エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧：働きがいも経済成長も ⑨：産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩：人や国の不平等をなくそう ⑪：住み続けられるまちづくりを ⑫：つくる責任つかう責任 ⑬：気候変動に具体的な対策を ⑭：海の豊かさを守ろう ⑮：陸の豊かさも守ろう ⑯：平和と公正をすべての人に ⑰：パートナーシップで目標を達成しよう
		MNG-343	税務会計	講義		2	2		○		わが国の租税の仕組みは大変難解なものであり、すべての税法を把握することは困難だといわれています。そこで、税務会計では、租税の仕組みと法人税法を中心に学習していきます。わが国では確定決算主義の立場を採っているため、決算による確定された利益を基礎にして課税所得が計算されることになります。また、会計上の処理と税務上の取扱いは一致していないことから、当期純利益と課税所得が同様の金額にならないのです。そこで、これらの違いを明確にして理解していきます。さらに、適時、文献を用いて租税について理解を深めていきます。	(1) 本講座は、租税の基礎的知識及び法人税法について理解できるようになる。 (2) 税務上の取扱いを理解するだけではなく、わが国の租税について受講生各自が自分なりの問題意識をもてるようになる。 (3) 租税に対する理解を深めることができるようになる。 (4) 身近な税金である相続税法も学習し、相続税法の適切な知識を吸収し、相続問題に対する解決力を培う。 (5) 税理士試験に出題される可能性のある税法分野の基礎知識を得ている。	◎	●	◎		
		MNG-351	秘書実務	演習		2	2		○	基礎・一般的な秘書実務（敬語・訪問・電話、来客応対）	演習を通じて、現場で必要な実践的な応対力を身につけるための学習プログラムであり、そのねらいは次の3点である。 (1) 秘書実務の意義と内容を理解できる。 (2) 秘書実務に必要な対人コミュニケーションを身につける。 (3) 事例や演習課題をもとに、状況に応じた秘書業務を習得できる。	(1) 秘書実務の意義と内容を説明できるようになる。 (2) 秘書実務に必要な基礎的対人コミュニケーションを実践できるようになる。 (3) 秘書実務に必要な基礎的情報業務を実践できるようになる。		●	◎		
		MNG-252	国際秘書概論	講義		2	2	○		国際秘書の役割と資質	国際秘書の秘書実務知識・スキルを身につけるための学習プログラムであり、そのねらいは次の3点。 (1) グローバル化とビジネス環境の変化を理解できる。 (2) 国際秘書の意義と内容を理解できる。 (3) 国際秘書に求められる知識・スキルを理解できる。	(1) グローバル化とビジネス環境の変化を説明できるようになる。 (2) 国際秘書の意義と内容を理解し説明できるようになる。 (3) 国際秘書に求められる知識・スキルを説明できるようになる。	◎	●			
		MNG-151	国際文化論	講義		2	1	○		共生社会の構築に向けてのトレーニング	異文化に対する見方と知識を学ぶことで、多文化共生の意義と課題を考えるための学習プログラムであり、そのねらいは次の3点。 (1) 多文化主義に関する基本的知識を理解する。 (2) 多文化共生に関する基本的知識を理解する。 (3) 日本の多文化社会化について理解する。	(1) 多文化主義国家の歴史と現状について説明できる。 (2) 多文化共生をめぐる課題について説明できる。	●	◎			
		MNG-152	時事英語Ⅰ	講義		2	2		○	ニュースで学ぶ時事英語	アメリカのニュース番組であるCBSの「CBS This Morning」のDVDを教材として使用して世界の時事問題の理解を促進し、ニュースについての自分の意見や考えを育成します。ニュースを理解するための語彙や表現、様々な技術の向上のため、話題について英語を使ったペアやグループによるリスニング、スピーキング、ライティング活動を行います。	(1) 放送されるニュースの大まかな内容を理解できるようになる。（聞く） (2) 補助教材として使用される印刷されたニュースの内容を理解することができるようになる。（読む） (3) 放送されるニュースについて、簡単な意見のやり取りができるようになる。（話す：やり取り） (4) 放送されるニュースについて、自分の意見を簡潔に伝えることができるようになる。（話す：表現） (5) 放送されるニュースについて、自分の意見を理論的に例証等もしなが5,150語程度の文章にまとめることができるようになる。（書く）	◎	●			①～⑰
		MNG-253	時事英語Ⅱ	講義		2	2	○		英語で学ぶ「いま」	本授業は、英語で社会の諸問題を学修することを目的する。 具体的には、教員の講義を主とした過去のニュース報道を収録した教科書を使用した学修のほか、学生が主体となってSDGsにかかる報道や企業の報告などのオーセンティックマテリアルを使用した学修（ディスカッションや発表報告含む）を行う。 コミュニケーション能力を伸ばすため、聴くこと・読むこと、話すこと・書くこと、相互にやりとりをすること、そして自分がどのように社会貢献できるかについて積極的に考える姿勢を身に付ける機会がある。日本国内外の諸問題を把握し、その解決策を多角的に検討することにより、より国際的な感覚を身に着ける機会がある。	(1) 平易な英語で伝えられる海外の報道や報告が理解できるようになる。 (2) グローバル化する社会にあって、日本国内外の社会の諸問題ついて、以前よりも深い関心を持つことができるようになる。 (3) 時事問題について多角的、批判的な思考をもって解決策を提案ができるようになる。	◎	●			①～⑰
		MNG-352	Business Writing	講義		2	2	○			In this course、 students will develop practical business writing skills in English. The activities will include writing email messages and other correspondence for business communication. The focus will be on writing mechanics、 grammar、 and common phrases/vocabulary used for everyday business writing. Through this course、 students will improve their basic English writing skills and build confidence in their ability to produce professional business correspondence.	(1) Students will be able to write clear and effective business correspondence in a variety of formats for different business situations. Students will gain experience in business writing for practical application in future jobs.		◎	●		
		MNG-153	英語コミュニケーション演習Ⅰ	演習		2	2	○		グローバル社会の異文化と英語コミュニケーションⅠ	解決策を共に考える人々が多様な背景を持つ可能性があることを念頭に、国際ビジネスの場での英語のやり取りを理解することを目標とする。 英語コミュニケーション演習Ⅰでは、一般的な国際ビジネスの場面で適当だと考えられている英語でのやりとりを中心に学修します。授業形式は、教科書の読解、動画などの視聴、会話練習、小テストとその解説で進める。	(1) 異文化理解・多文化共生の視点から、自分の意見を日本人以外の他者にわかりやすく言語化する大切さが理解できるようになる。 (2) 基本的な英語による日常会話を受講前よりも多く使うことができるようになる。 (3) 一般のビジネスの場面で使用する英語を受講前よりも多く使用することができるようになる。 (4) 受講前よりも自信をもって英語による発話ができるようになる。	◎	●			
		MNG-254	英語コミュニケーション演習Ⅱ	演習		2	2		○	グローバル社会の異文化と英語コミュニケーションⅡ	解決策を共に考える人々が多様な背景を持つ可能性があることを念頭に、国際ビジネスの場での英語のやり取りを理解することを目標とする。 英語コミュニケーション演習Ⅱでは、特定のビジネスの場面に適した英語でのやりとりを中心に学修します。授業形式は、教科書の読解、動画などの視聴、発話練習、小テストとその解説で進める。	(1) 異文化理解・多文化共生の視点から、自分の意見を日本人以外の他者にわかりやすい文章が生成できるようになる。 (2) 特定のビジネスの場面で使用する英語を受講前よりも多く使用することができるようになるようになる。 (3) 受講前よりも自信をもって英語による発話ができるようになるようになる。	◎	●	◎		
		MNG-255	異文化間コミュニケーション	講義		2	2		○	他者への理解と「差別」	本科目では、日本とアメリカを中心として「差別問題」について検討することで、異文化間コミュニケーションの前提要件である「他者への理解」を深めていく。また、本科目では、アクティブ・ラーニングの一環としてディスカッションおよび個人報告を通して、受講学生のコミュニケーション能力及び学力の向上を目指していく。	(1) 人間に関わる諸問題としての「差別」について理解できるようになる。 (2) 専門書を適切に読み解くことができるようになる。 (3) 文献を通じて学んだ内容を相手に説明できるようになる。 (4) 文献の内容を適切に要約できるようになる。		●			
		MNG-161	法学原論	講義		2	1	○			本科目は、社会の諸問題を把握し、その解決策を提示できる思考の基本を構成する「法学」を概説的に学ぶ科目である。基本的には法的思考のスタートラインとして、法学の意義・体系、法解釈等を学んだ上、各法分野の導入・基本部分を学 習し、租税・社会保障法等将来の社会で活用できる知識・能力を身につけること を狙いとする。	(1) 法の体系とそれぞれの思考法、理念、原則が理解できる。 (2) 各法制度の基本的理解をもとに、固有の問題について、事例と関連させな がら理解し、紛争解決のための結論を導くことができる。 (3) 法制度の現状を理解し、それが課題解決の手段としてどのように機能して いるかを理解し、政策の立案・提言により社会に貢献できる実践的な能力を備える。	●				

常磐大学　総合政策学部　経営学科　履修系統図（表形式）【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連（学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項）

授業科目の区分		カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル／テーマ	授業科目の主題 （授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等）	学生の学修目標 （到達目標）	1.基本的読学力、情報処理能力を修得し、経営、マーケティングおよび財務・会計に関する基礎知識について説明できる。（知識・理解）	2.グローバル化する社会にあって、経営（マネジメント）という観点から課題を解決する調整能力を備えている。（思考・判断）	3.実務に対応した専門性を高めようとする真摯な態度と意欲を身につけている。（態度）	4.地域経済において直面する問題を解決するコミュニケーション能力とリーダーシップを備えている。（技能）	＜SDGsの17のゴールとの関連＞ 概論：SDGsの概念や考え方を学ぶ ①：貧困をなくそう ②：飢餓をゼロに ③：すべての人に健康と福祉を ④：質の高い教育をみんなに ⑤：ジェンダー平等を実現しよう ⑥：安全な水とトイレを世界中に ⑦：エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧：働きがいも経済成長も ⑨：産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩：人や国の不平等をなくそう ⑪：住み続けられるまちづくりを ⑫：つくる責任つかう責任 ⑬：気候変動に具体的な対策を ⑭：海の豊かさを守ろう ⑮：陸の豊かさも守ろう ⑯：平和と公正をすべての人に ⑰：パートナーシップで目標を達成しよう
		MNG-162	政治学原論	講義		2	1	○			新聞をめくってみると政治面は経済面や社会面、スポーツ面よりも前に掲載されている。これはそれだけ読者（＝人々）が政治に対して高い関心を寄せていることの現れであろう。しかしその反面、「政治とは何か」と聞かれて明確に答えられる人は多くない。はたして政治はどのようなメカニズムで動いているのだろうか。この講義ではそんな政治の世界を考えるためのツールである「政治学」について講義する。	(1)政治を分析するための諸概念や諸理論について理解し、現在進行形の政治的事象に対し学生自らが考え、自分自身の意見を述べることができる。	●				
		MNG-163	経済学原論	講義		2	1	○			経済学は、私たちが暮らす社会の動きや仕組みを明らかにしようとする学問です。例えば、「先月の全国消費者物価上昇率は0.5%でした。」というようなニュースが流れます。消費者物価とは何でしょうか。消費者物価が上がると私たちの生活にどのような影響を与え、私たちはどのような行動をとるのでしょうか。こういったことを経済学というツールを利用してより深く考察することができるようになります。本講義では、実社会を見る視点・知識を養うために知っておくべき基礎的な知識と手法（ミクロ経済学とマクロ経済学）を学びます。	(1)最新の政府統計等のデータを見て、現在の社会情勢や変化について捉え、経済学の観点から現実の社会的事象を論じることができるようになること。 (2)経済理論と政府統計等のデータを応用し、政策の立案・提言ができるようになること。	●				
		MNG-164	哲学概論	講義		2	1	○		ヨーロッパの哲学と中国の思想	ヨーロッパと東洋（中国）の古今の哲学・思想について概説する。自分たちが常識だと思っていることを疑ってみることによって、現在の我々のものの見方、考え方の根底に哲学があることに気づいてもらうことからはじめる。そして、現代の考え方が、どのように発展・展開してきたのか、ヨーロッパの哲学と中国を中心とした東洋思想を軸として講義をし、哲学についての知識を深め、現代の哲学について考察していく。	(1)東洋と西洋の哲学・思想の概要を説明できる。学問および社会の根底には哲学があることを認識できる。 (2)授業を成立させるための要件（学習課題、板書、発問等）を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (3)教科等に関する専門的知識を有し、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。	●				
		MNG-165	倫理学概論	講義		2	1		◎	教職課程	現在、国際化が進んでいるが、自分や自分をとりまく日本人の行動様式や倫理観を知ることも忘れてはならない。それらは、日本の歴史の中で、日本古来の思想、仏教思想、儒教思想、アメリカの民主主義など、多くの思想の影響を受けて形成されてきたと考えられる。本講義では、まずは日本人の倫理思想を形成してきた儒教思想および仏教思想を検討し、さらにキリスト教を基本とする西洋の倫理思想を考察することによって、現代日本の倫理思想についての考えを深め、現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けることにする。	(1)現代日本人の倫理観を形成している様々な倫理思想を知り、自分や他人の行動を客観的に考えることができるようになる。 (2)授業を成立させるための要件（学習課題、板書、発問等）を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (3)教科等に関する専門的知識を有し、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。	●				